

2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 アトラグループ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6029 URL <https://www.artra-group.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長CEO (氏名) 久世 博之  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 田中 雅樹 (TEL) 06-6533-7622  
 定時株主総会開催予定日 2023年3月29日 配当支払開始予定日 —  
 有価証券報告書提出予定日 2023年3月30日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期の連結業績 (2022年1月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期	4,671	47.9	2	—	15	—	2	—
2021年12月期	3,158	30.1	△223	—	△224	—	△351	—

(注) 包括利益 2022年12月期 5百万円(—%) 2021年12月期 △362百万円(—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年12月期	0.22	—	0.2	0.3	0.1
2021年12月期	△36.76	—	△25.0	△4.5	△7.1

(参考) 持分法投資損益 2022年12月期 ー百万円 2021年12月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期	4,652	1,307	28.1	133.37
2021年12月期	5,595	1,439	25.7	147.69

(参考) 自己資本 2022年12月期 1,305百万円 2021年12月期 1,439百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年12月期	△132	△154	△314	1,234
2021年12月期	△208	△563	895	1,835

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2023年12月期の連結業績予想 (2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,308	6.4	△82	—	△84	—	△99	—	△10.12
通期	5,155	10.4	130	—	125	723.5	84	—	8.58

※ 注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名)－  
 除外 1社(社名)株式会社One Third Residence

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年12月期	9,807,000株	2021年12月期	9,767,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期	20,266株	2021年12月期	20,266株
③ 期中平均株式数	2022年12月期	9,772,268株	2021年12月期	9,552,330株

(参考) 個別業績の概要

1. 2022年12月期の個別業績(2022年1月1日～2022年12月31日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期	1,906	△7.1	△87	－	△31	－	△156	－
2021年12月期	2,052	5.4	△183	－	△164	－	△298	－
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年12月期	△16.03		－					
2021年12月期	△31.24		－					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円		
2022年12月期	3,422	1,100	32.1	円 銭	112.21	
2021年12月期	4,321	1,241	28.7	円 銭	127.34	

(参考) 自己資本 2022年12月期 1,098百万円 2021年12月期 1,241百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については添付資料3ページ「1 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(会計方針の変更) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	15
(重要な後発事象) .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当社グループが属する鍼灸接骨院業界におきましては、療養費が減少傾向にあり、自費施術及び物販の拡大が課題となっております。

このような状況の下、当社グループは、各種セミナーの開催、ほねつぎチェーンの加盟院の増加、自費施術に使用する機材の販売、アトラ請求サービスの会員の増加、HONEY-STYLEの利用院の増加に取り組みました。

また、2021年12月に子会社化した株式会社ペリカン（2022年4月1日に株式会社ビーユウから社名変更、以下同様。）において、玩具販売の拡大に取り組みました。

なお、連結子会社であった株式会社One Third Residenceは2022年4月に全株式を売却したため、連結の範囲から除外しました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高が4,671,498千円（前連結会計年度比47.9%増）、営業利益が2,823千円（前連結会計年度は営業損失が223,022千円）、経常利益が15,178千円（前連結会計年度は経常損失が224,672千円）、親会社株主に帰属する当期純利益が2,104千円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失が351,122千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

#### （鍼灸接骨院支援事業）

当セグメントの売上高は2,758,437千円（前連結会計年度比2.6%減）、営業損失は79,134千円（前連結会計年度は営業損失が255,564千円）となりました。

支援内容別の概要は以下のとおりであります。

#### ・ほねつぎチェーン

既存の鍼灸接骨院の加盟促進及び直営店の売上拡大等に注力しました。

この結果、売上高は520,522千円（前連結会計年度比13.5%減）となりました。

#### ・機材、消耗品販売

療養費が減少傾向となる中、自費施術に使用する機材の需要は拡大しております。当社グループは、アトラアカデミーにおいて、動画の充実に取り組み、会員の増加を図っております。また、セミナーの開催をとおし、自費施術に使用する機材の拡販に取り組んでおります。

また、鍼灸接骨院専門ECサイトであるアトラストアでは、あしたの私をつくるケアカタログ「トトリエ」を発行し取扱商品の拡充を図りました。

この結果、売上高は790,082千円（前連結会計年度比9.9%減）となりました。

#### ・アトラ請求サービス

新規開設院の入会及びA-COMSファイナンスサービス利用院の拡大等に注力しました。

この結果、売上高は530,434千円（前連結会計年度比4.7%減）となりました。

#### ・HONEY-STYLE

鍼灸接骨院のロコミ／予約システムであるHONEY-STYLEの利用院増加に注力しました。

この結果、売上高は94,633千円（前連結会計年度比26.6%減）となりました。

#### ・介護支援

ほねつぎデイサービスの加盟店開発、既存加盟店のロイヤリティ収入の拡大及び直営店の売上拡大等に注力しました。

この結果、売上高は480,305千円（前連結会計年度比31.6%増）となりました。

#### ・フィットネス関連

ワンサードフィットネスの加盟店開発及び直営店の売上拡大等に注力しました。

この結果、売上高は125,917千円（前連結会計年度比4.2%減）となりました。

・その他

売上高は216,542千円（前連結会計年度比25.9%増）となりました。

(玩具販売事業)

ペリカンにおいて、玩具・文具等の拡販に注力しました。

この結果、当セグメントの売上高は1,913,060千円（前連結会計年度比487.8%増）、営業利益は79,906千円（前連結会計年度比145.5%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ942,925千円減少し、4,652,439千円となりました。これは主に、現金及び預金が601,351千円、営業貸付金が79,608千円及びのれんが224,564千円減少したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ810,628千円減少し、3,345,282千円となりました。これは主に、短期借入金が300,000千円、未払金が85,850千円、収納代行預り金が65,626千円及び長期借入金が222,270千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ132,296千円減少し、1,307,156千円となりました。これは主に、利益剰余金が147,895千円減少したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ601,351千円減少し、1,234,142千円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な内訳は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、132,554千円の支出（前連結会計年度比36.4%減）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、減価償却費の計上135,774千円、仕入債務の増加額59,245千円、資金の減少要因として、売上債権の増加額33,395千円、棚卸資産の増加額107,833千円、未払金の減少額76,383千円、収納代行預り金の減少額65,637千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、154,172千円の支出（前連結会計年度比72.7%減）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、投資事業組合からの分配による収入27,700千円、資金の減少要因として、有形固定資産の取得による支出106,192千円、無形固定資産の取得による支出50,186千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、314,624千円の支出（前連結会計年度は895,505千円の収入）となりました。主な内訳は、資金の増加要因として、長期借入れによる収入424,000千円、資金の減少要因として、短期借入金の純減少額300,000千円、長期借入金の返済による支出429,983千円であります。

(4) 今後の見通し

2023年12月期につきましては、療養費が減少傾向にある中、引き続き自費施術及び物販の拡大が接骨院業界共通の課題になると想定されます。

このような環境の下、当社グループは、自費施術を拡大することで、過度に療養費に依存しない接骨院の体制構築に貢献してまいります。具体的には、セミナーを開催し、当社グループのノウハウを提供してまいります。

ほねつぎチェーンは自費施術及び物販の拡大を目指し、コンサルティングに注力します。

機材販売は、増加しているアトラアカデミーの会員向けに自費施術に関するセミナーを開催し、新規顧客の獲得に注力してまいります。

アトラ請求サービスは、療養費請求に使用するシステムA-COMSの有効活用を提案し、会員の増加に繋げてまいります。

HONEY-STYLEは、無料プラン利用院の増加に取り組み、有料プラン利用院の増加に繋げてまいります。

アトラストアは、セルフケアカタログ「トリエ」の浸透を図り、物販の拡大に努めてまいります。

ほねつぎデイサービスは、柔道整復師が勤務する当社独自のノウハウを武器に、加盟店の増加に努めてまいります。

ワンサードフィットネスは、鍼灸接骨院、介護事業とのシナジーの創出を進め、売上、利益の拡大に取り組んでまいります。

また、前連結会計年度に子会社化した株式会社ペリカンでの玩具販売事業においては、鍼灸接骨院支援事業で培ったリアル店舗に対する経営指導のノウハウを活かし、売上の拡大に努めてまいります。

これらのことから、2023年12月期の売上高は5,155,000千円（当連結会計年度比10.4%増）、営業利益は130,000千円（当連結会計年度比4,503.6%増）、経常利益は125,000千円（当連結会計年度比723.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は84,000千円（当連結会計年度比3,891.8%増）を予想しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、日本基準による連結決算を実施しており、連結財務諸表の期間比較可能性を考慮し、当面は日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,835,494	1,234,142
売掛金	324,707	345,385
営業貸付金	490,742	411,133
商品	740,323	710,314
仕掛品	3,791	2,051
その他	412,195	386,120
貸倒引当金	△3,967	△2,857
流動資産合計	3,803,287	3,086,290
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	62,536	92,091
工具、器具及び備品(純額)	31,928	37,594
土地	27,152	27,152
リース資産(純額)	5,804	7,129
その他(純額)	0	13,432
有形固定資産合計	127,421	177,400
無形固定資産		
のれん	224,564	—
ソフトウェア	249,095	197,685
その他	9,460	29,474
無形固定資産合計	483,120	227,159
投資その他の資産		
投資有価証券	761,058	743,389
長期貸付金	29,392	33,730
繰延税金資産	6,019	513
その他	449,503	435,437
貸倒引当金	△64,436	△51,483
投資その他の資産合計	1,181,536	1,161,588
固定資産合計	1,792,077	1,566,149
資産合計	5,595,364	4,652,439
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	352,947	361,353
短期借入金	300,000	—
1年内返済予定の長期借入金	407,689	401,928
未払金	187,438	101,587
未払法人税等	24,093	24,288
賞与引当金	24,780	25,080
ポイント引当金	15,569	10,492
収納代行預り金	577,718	512,091
預り金	57,771	46,223
その他	206,332	121,536
流動負債合計	2,154,339	1,604,582
固定負債		
長期借入金	1,727,077	1,504,807
繰延税金負債	11,405	7,664
退職給付に係る負債	92,484	89,976
資産除去債務	167,395	133,813
その他	3,209	4,439
固定負債合計	2,001,571	1,740,700
負債合計	4,155,911	3,345,282

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	722,187	727,347
資本剰余金	898,503	903,663
利益剰余金	△178,861	△326,757
自己株式	△159	△159
株主資本合計	1,441,669	1,304,093
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,216	1,142
その他の包括利益累計額合計	△2,216	1,142
新株予約権	—	1,920
純資産合計	1,439,452	1,307,156
負債純資産合計	5,595,364	4,652,439



## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
売上高	3,158,240	4,671,498
売上原価	2,281,994	3,099,204
売上総利益	876,245	1,572,294
販売費及び一般管理費	1,099,267	1,569,470
営業利益又は営業損失(△)	△223,022	2,823
営業外収益		
受取利息	100	184
受取手数料	9,270	7,958
助成金収入	12,897	3,179
保険解約返戻金	5,852	—
解約料収入	—	1,034
投資事業組合運用益	—	16,777
その他	5,883	10,174
営業外収益合計	34,003	39,308
営業外費用		
支払利息	10,948	16,695
為替差損	355	2,765
支払手数料	8,150	—
投資事業組合運用損	964	—
株式交付費	14,054	6,503
その他	1,179	988
営業外費用合計	35,653	26,953
経常利益又は経常損失(△)	△224,672	15,178
特別利益		
固定資産売却益	710	1,371
投資有価証券売却益	30,120	300
関係会社株式売却益	14,139	10,123
新株予約権戻入益	1,000	—
負ののれん発生益	1,023	—
受取和解金	10,000	—
特別利益合計	56,993	11,794
特別損失		
減損損失	51,950	—
固定資産除却損	638	0
固定資産売却損	—	116
投資有価証券評価損	95,985	—
支払和解金	15,000	—
特別損失合計	163,575	116
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△331,253	26,856
法人税、住民税及び事業税	16,589	22,216
法人税等調整額	3,279	2,535
法人税等合計	19,868	24,751
当期純利益又は当期純損失(△)	△351,122	2,104
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△351,122	2,104

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△351,122	2,104
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,313	3,359
その他の包括利益合計	△11,313	3,359
包括利益	△362,435	5,463
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△362,435	5,463

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	565,143	591,459	203,371	△159	1,359,814
当期変動額					
新株の発行	157,044	157,044			314,088
剰余金の配当			△31,110		△31,110
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△351,122		△351,122
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		150,000			150,000
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	157,044	307,044	△382,233	—	81,854
当期末残高	722,187	898,503	△178,861	△159	1,441,669

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	9,096	9,096	1,000	1,369,911
当期変動額				
新株の発行				314,088
剰余金の配当				△31,110
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)				△351,122
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動				150,000
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△11,313	△11,313	△1,000	△12,313
当期変動額合計	△11,313	△11,313	△1,000	69,541
当期末残高	△2,216	△2,216	—	1,439,452

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	722,187	898,503	△178,861	△159	1,441,669
当期変動額					
新株の発行	5,160	5,160			10,320
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,104		2,104
連結除外に伴う利益剰 余金の増減額			△150,000		△150,000
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	5,160	5,160	△147,895	—	△137,575
当期末残高	727,347	903,663	△326,757	△159	1,304,093

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	△2,216	△2,216	—	1,439,452
当期変動額				
新株の発行				10,320
親会社株主に帰属する 当期純利益				2,104
連結除外に伴う利益剰 余金の増減額				△150,000
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	3,359	3,359	1,920	5,279
当期変動額合計	3,359	3,359	1,920	△132,296
当期末残高	1,142	1,142	1,920	1,307,156

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	△331,253	26,856
減価償却費	131,349	135,774
減損損失	51,950	—
のれん償却額	25,408	11,228
負ののれん発生益	△1,023	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	227	△1,095
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,286	300
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	11,208	△2,508
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△1,192	△5,076
固定資産除却損	638	0
固定資産売却損	—	116
固定資産売却益	△710	△1,371
投資有価証券評価損	95,985	—
投資有価証券売却益	△30,120	△300
関係会社株式売却損益 (△は益)	△14,139	△10,123
受取利息	△100	△184
支払利息	10,948	16,695
株式交付費	14,054	6,503
売上債権の増減額 (△は増加)	△51,278	△33,395
営業貸付金の増減額 (△は増加)	△17,504	79,608
棚卸資産の増減額 (△は増加)	34,986	△107,833
仕入債務の増減額 (△は減少)	182,373	59,245
未払金の増減額 (△は減少)	23,714	△76,383
預り金の増減額 (△は減少)	△80,408	△3,480
収納代行預り金の増減額 (△は減少)	△65,333	△65,637
その他	△165,830	△125,156
小計	△174,763	△96,218
利息の受取額	1,318	165
利息の支払額	△11,117	△17,433
法人税等の支払額	△24,003	△19,068
営業活動によるキャッシュ・フロー	△208,565	△132,554
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△34,130	△106,192
有形固定資産の売却による収入	1,380	1,550
無形固定資産の取得による支出	△22,070	△50,186
投資有価証券の売却による収入	30,150	300
貸付けによる支出	△399,100	—
定期預金の増減額 (△は増加)	△100,000	—
投資事業組合からの分配による収入	13,800	27,700
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△105,214	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	38,424	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△8,436
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	11,985	—
その他	939	△18,907
投資活動によるキャッシュ・フロー	△563,837	△154,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△514,100	△300,000
長期借入れによる収入	1,260,000	424,000
長期借入金の返済による支出	△252,144	△429,983
株式の発行による収入	293,980	—
新株予約権の発行による支出	—	△4,583
配当金の支払額	△31,025	△243
非支配株主からの払込みによる収入	141,932	—
その他	△3,137	△3,813
財務活動によるキャッシュ・フロー	895,505	△314,624
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	123,103	△601,351
現金及び現金同等物の期首残高	1,712,391	1,835,494
現金及び現金同等物の期末残高	1,835,494	1,234,142

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

## ・当社が運営するポイント制度に係る収益認識

当社が運営するポイント制度に基づき、商品の販売時に顧客に付与したポイントについては、従来は将来利用されると見込まれる額をポイント引当金として計上する方法を採用していましたが、付与するポイントのうち、購入金額に応じたポイント残高については、顧客に対する履行義務として認識し、契約負債に計上する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当連結会計年度の利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

これによる連結財務諸表に与える影響は軽微であります。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」の一部を、当連結会計年度より、契約負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## 1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「鍼灸接骨院支援事業」、「玩具販売事業」の2つを報告セグメントとしております。「鍼灸接骨院支援事業」は、ほねつぎチェーン、機材・消耗品販売、アトラ請求サービス、HONEY-STYLE、介護支援、フィットネス関連などの鍼灸接骨院支援に関する事業を行っております。「玩具販売事業」は玩具・文具等の販売に関する事業を行っております。

## 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	鍼灸接骨院 支援事業	玩具販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,832,794	325,446	3,158,240	—	3,158,240
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,832,794	325,446	3,158,240	—	3,158,240
セグメント利益又は損失(△)	△255,564	32,542	△223,022	—	△223,022
セグメント資産	2,943,757	1,108,634	4,052,391	1,542,973	5,595,364
その他の項目					
減価償却費	131,349	—	131,349	—	131,349
のれんの償却額	25,408	—	25,408	—	25,408
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	56,201	—	56,201	—	56,201

(注) 1 セグメント資産の調整額1,542,973千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産は、主に親会社の余剰運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券等)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業損失(△)と一致しております。

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	鍼灸接骨院 支援事業	玩具販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,758,437	1,913,060	4,671,498	—	4,671,498
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,204	—	7,204	△7,204	—
計	2,765,642	1,913,060	4,678,703	△7,204	4,671,498
セグメント利益又は損失(△)	△79,134	79,906	771	2,052	2,823
セグメント資産	2,283,193	1,272,404	3,555,597	1,096,842	4,652,439
その他の項目					
減価償却費	135,164	610	135,774	—	135,774
のれんの償却額	11,228	—	11,228	—	11,228
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	142,803	13,575	156,378	—	156,378

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額2,052千円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額1,096,842千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産は、主に親会社の余剰運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券等)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。



## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり純資産額	147.69円	133.37円
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	△36.76円	0.22円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	－円	－円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)		
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△351,122	2,104
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	－
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失(△)(千円)	△351,122	2,104
普通株式の期中平均株式数(株)	9,552,330	9,772,268
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	－	2022年5月13日取締役会決議による第4回新株予約権 普通株式 2,400,000株

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。